

日本語学習者の自律学習を促すシャドーイングの実践と気づき —発音の滑らかさの向上を目指した練習方法に関する一考察—

戸田貴子、大久保雅子

早稲田大学・早稲田大学日本語教育研究センター

要旨

本研究では、学習者の自律学習におけるシャドーイング練習の実態を明らかにするために、日本語学習者 56 名を対象に調査を実施した。その結果、学習者は様々なリソースを選択していることがわかった。また、長い時間練習すればその分気づきが生まれるわけではなく、むしろ短い時間の練習の継続が重要であることが明らかになった。さらに、授業で導入した日本語の音韻知識がシャドーイング実践における気づきを促すことが明らかになった。

【キーワード】 シャドーイング、リソース、シャドーイング時間、自律学習、気づき

1 はじめに

本研究では、発音の滑らかさを高めることを目標とした教室活動にシャドーイングを導入し、自律学習を促す発音練習の方法について考察する。本研究で扱うシャドーイングとは、音声面に焦点を当てたプロソディー・シャドーイングを指す¹。

Schmidt (1990) は「気づき仮説」を唱え、言語学習における「気づき」の必要性を主張している。この「気づき」は、発音を滑らかにするための練習においても重要であると考えられる。そこで本研究では、学習者にシャドーイングの自律学習を促し、そこでどのような気づきが生まれているのかを観察した。この観察から、気づきを促す要因を探る。

2 先行研究

高橋・松崎 (2007) では、上級学習者 3 名を対象にシャドーイング練習を行い、音の高低に顕著な向上が見られたこと、音の高低を長期間記憶できたこと、そしてモニター力の活性化や発音意識の向上がみられたことを指摘している。また、望月 (2006) では、日本語を履修している留学生 50 名を対象にシャドーイング授業を行い、アンケート調査を実施した。その結果、学習者は日本語授業へのシャドーイングの導入について有効性を認めており、「聞き取れるようになった気がする」、「短期記憶が強化された気がする」、「発音がよくなった気がする」、「いろいろな単語が覚えられた気がする」といった効果を感じていることが報告されている。唐澤 (2010) では、短期間 (5 日間) のシャドーイング練習 (1 回 30~40 分) が及ぼす同一個人内 (タイ人: 中上級) の変化を検討した。シャドーイング練習前後の音読を比較したところ、文の切れ目の発音、声門閉鎖音、アクセントが改善された。しかし、「気づき」を促すための効果的なシャドーイング練習を検討した研究は、管見の及ぶ限り見当たらない。

3 本研究の目的

本研究の目的は、学習者にシャドーイング練習の自律学習を促した場合、どのような練習を行い、どのような気づきが生まれるのかを明らかにし、最終的には、発音の滑らかさの向上を目指す練習方法を提案することである。

4 調査

4.1 調査協力者

本研究の調査協力者は早稲田大学日本語教育研究センター設置の発音クラスに在籍する学習者 56 名（中級 29 名、上級 27 名）である。なお、発音クラスでは、週に 1 コマ（90 分）、『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』を使用して授業を行っている²。

4.2 調査方法

本研究では、8 週間におよぶ調査を行った。まず、学習開始時に『日本語でシャドーイング』Part I 解説編「シャドーイングとは」³を見せて練習方法を説明した。次に、Part II ナレーション編「東京の魅力発見」⁴、Part III 会話編「ベストフレンド」⁵を使用して、シャドーイング実践を行った。その後、毎日シャドーイング練習をすることを促し、毎週一回の授業で「シャドーイング振り返りシート」を提出する課題を与えた。シートには、学習者自身が日本語のリソースを選択し、シャドーイング練習を行って、練習の頻度（週何回）、リソース（ニュース、映画、教材等）の種類、練習時間（何分）を記入した。

| シャドーイング「振り返り」シート | | | | | | |
|--|---|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---|---------------------------------|
| 12 日 (月) | 13 日 (火) | 14 日 (水) | 15 日 (木) | 16 日 (金) | 17 日 (土) | 18 日 (日) |
| ドラマ「奥の細道」 種別 [3 分] OD/DVD [] YouTube | N 日経ニュース 種別 [2 分] OD/DVD/TV [] YouTube | 種別 [0 分] OD/DVD/TV/YouTube | 種別 [0 分] OD/DVD/TV/YouTube | 種別 [0 分] OD/DVD/TV/YouTube | 『コミュニケーションのための日本語』 種別 [1 分] OD/DVD/TV/YouTube | 種別 [0 分] OD/DVD/TV/YouTube |
| 種別 [分] OD/DVD/TV/YouTube | 種別 [分] OD/DVD/TV/YouTube | 種別 [分] OD/DVD/TV/YouTube | 種別 [分] OD/DVD/TV/YouTube | 種別 [分] OD/DVD/TV/YouTube | 映画「ターリンは外国人」 種別 [2 分] OD/DVD/TV/YouTube | 種別 [分] OD/DVD/TV/YouTube |
| 記入例を参考に、シャドーイング練習をした日に「シャドーイング練習をした素材」と「練習時間（分）」「使用したもの」を下の表に記入してください。 | | | | | | |
| （月） | （火） | （水） | （木） | （金） | （土） | （日） |
| .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. |
| 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] |
| CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube |
| .. | .. | .. | .. | .. | .. | .. |
| 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] | 時間 [分] |
| CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube | CD/DVD/TV/YouTube |
| 【質問】①シャドーイング練習を通して、日本語の発音について何か気がついたことがありますか。 | | | | | | |
| .. | | | | | | |
| ②シャドーイング練習を通して、自分の発音に変化した点がありますか。 | | | | | | |
| .. | | | | | | |
| ③シャドーイング練習を通して、自分の理解に変化した点がありますか。 | | | | | | |
| .. | | | | | | |

図 1 シャドーイング「振り返り」シート

5 調査結果

調査の結果、次のことが明らかになった。

(1) 学習者が選択したリソースは、ドラマ (303 件)、ニュース (302 件)、アニメ (206 件) が多かった (図2)。また、その他には、表1のように様々なリソースがみられた。

(2) シャドーイング実践をとおして、気づきが得られた学習者を上位群、気づきが得られなかった学習者を下位群 (上位: 18 人、下位: 31 人) として一回あたりのシャドーイング時間を比較したところ、必ずしも上位群の学習者の練習時間が長いわけではなく、下位群の学習者のほうが一回あたりの練習時間が長いこともあった。このことから、短時間でも練習を継続していくことが気づきを促す可能性があることがわかった (表2)。

(3) 気づきの内容を分類した結果、「アクセント」「イントネーション」「単音・特殊拍」に関するものが多かった (図3)。なお、学習者の気づきの例を表3に示す。この結果から、気づきの内容が授業で導入した音声項目と連動していることが明らかになった。

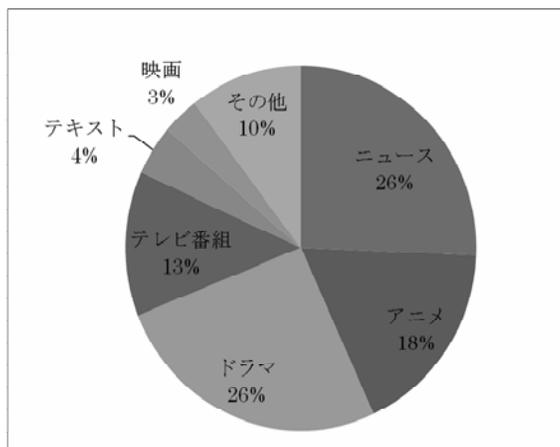


図2 学習者が使用したリソース

表1 図1の「その他」のリソース例

| |
|----------|
| 天気予報 |
| 実際の会話 |
| オンデマンド教材 |
| ゲーム |
| CM |
| 歌 |
| ラジオ番組 |
| 電車のアナウンス |
| 放送大学 |
| セミナー |

表2 一回あたりのシャドーイング時間

| 「気づき」の有無 | 平均 | 最小値 | 最大値 |
|-------------|--------|-------|--------|
| 「あり」群 (18人) | 8.62分 | 3.56分 | 18.81分 |
| 「なし」群 (31人) | 10.55分 | 2.66分 | 48.33分 |

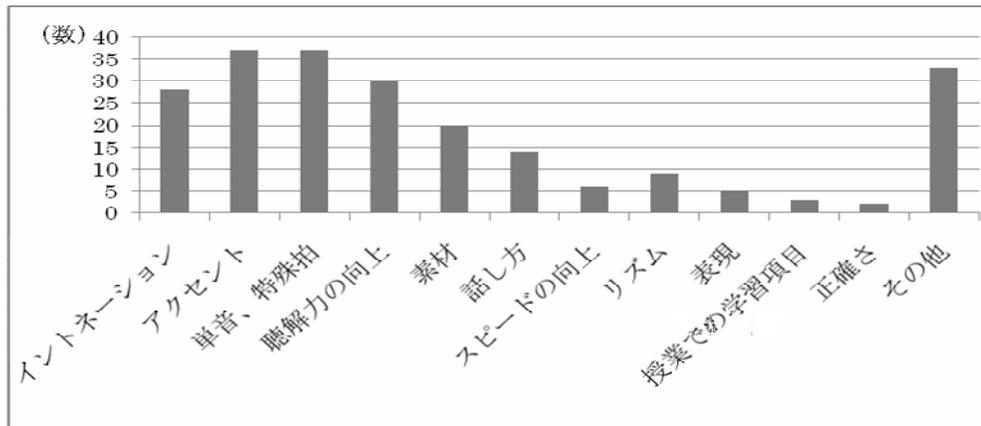


図3 気づきの内容

表3 学習者の気づき（コメント例）（原文のまま）

| |
|--|
| 今週の練習を通じて、日本語のイントネーションが違っていると、意味が変わってしまうという事に気がつきました。（中級） |
| 今週動詞のアクセントを勉強していたから、もっと動詞の発音に気がつきました。（中級） |
| 日本人の中で、特に「ふ」の発音は、人によって違います。（中級） |
| 自分の発音はロボットみたい、感情が入らない事に気がつきました。（中級） |
| 日本語はさいしょの文、会話は...（山、への字）。日本に来る前、私は日本語は...（波）みたいだと思います。（上級） |
| 私の長音が時々間違えたと思いました。（上級） |
| リズムがわかってきた気がします。自然なリズムというか、ことばとことばのつながりがわかってきました。（上級） |
| よく聞くとアクセントが聞こえる。（でもまだむずかしい。）（上級） |

6 考察

本調査結果から、学習者が選択したリソースには様々なものがあることがわかった。シャドーイング練習を継続するためには、学習者の興味関心があるリソースを選択することが必要であると思われる。

また、長い時間シャドーイングをすればその分気づきが多く生まれるというわけではなく、短い時間のシャドーイングを継続することが重要であることが示唆された。

さらに、8週間の調査期間中、毎週一回の授業では音声項目を導入し、練習を行ったが、気づきの内容がこれらの音声項目と連動していることが示唆された。

戸田（2009）では、学習成功者に共通する特徴として、メタ言語として日本語音韻を学習していること、およびシャドーイングを教室外でも継続していくことの重要性が挙げられているが、本研究においても、日本語音韻の知識とシャドーイング練習の継続により気づきが生まれ、習得へとつながっていくと考えられる。以下は、ある上級学習者のコース終了時の感想である。

「クラスでいろいろな練習をしたが、一番役に立つのは、シャドーイング練習だと思う。ゆえに毎日シャドーイング練習をしてから自分の発音についていろいろなことをわかってきた。たとえば、言葉の間違った発音やリズムやイントネーションの問題もやっと自然に気がついた。(中略) コミュニケーションのための発音の講義で日本語の発音について様々なことを気がついた。さらに私の発音も相違や間違いは、気がついてきた。オンデマンド講義とシャドーイング練習のおかげで私の発音の意識が上がったと思う。それにシャドーイング練習を通じて私は、発音がある程度改善したと思うので今から練習を続けてどんどん進歩したいと思う。(原文のまま)」

7 まとめ

本研究では、8週間の調査期間中、学習者にシャドーイングの自律学習を促した。その結果、学習者は様々なリソースを自分で選択していることがわかった。また、長い時間練習すればその分気づきが生まれやすくなるわけではなく、むしろ短い時間の練習の継続が重要であることがわかった。さらに、授業で導入した日本語の音韻知識がシャドーイング実践における気づきを促すことが明らかになった。以上のことから、発音の滑らかさの向上を目指す場合、シャドーイングを使った自律学習は可能であることが示唆された。また、授業での音韻知識の導入がシャドーイング練習における気づきを促すことが示された。これらのことから、発音の滑らかさの向上のためには、ただシャドーイングを行うだけではなく、音韻知識の導入と連動した練習が効果的であると考えられる。

注.

¹ シャドーイングとは、外国語の音声を聞いて、すぐあとについて同じように発音する練習方法である。シャドーイングには、意味理解に焦点を当てたコンテンツシャドーイングと音声面に焦点を当てたプロソディーシャドーイングがある。

² 授業で導入する音声項目は、「日本語の音 (母音、子音、特殊拍)」、「日本語のリズム」、「話しことばの発音 (縮約形)」、「名詞のアクセント」、「い形容詞のアクセント」、「動詞のアクセント」「オノマトペ」、「イントネーション」、「ポーズ・フォーカス・プロミネンス」などである。

³ Part I 解説編は、教師と学生の配役により、教師が練習の目的を述べ、練習方法を解説し、学生が実際にシャドーイング、マンブリング、サイレント・シャドーイングを行っている様子をわかりやすく伝えるように映像化したものである。

⁴ Part II ナレーション編はモノログ練習用で、使用後は、学習者自身が関心のあるニュースやドキュメンタリーを選択し、練習を継続していくことが意図されている。

⁵ Part III 会話編ではダイアログ練習を行い、学習者が好きなドラマや映画を使って、シャドーイング練習を継続していくことが意図されている。

<参考文献>

- 唐澤 麻里 (2010) 「シャドーイングが日本語学習者にもたらす影響：短期練習による発音面および学習者意識の観点から」お茶の水女子大学人文科学研究 6, pp. 209-220
- 迫田久美子・松見法男 (2004) 「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究—「わかる」から「できる」への教室活動への試み—」『2004 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会, pp.223-224
- 迫田久美子・松見法男 (2005) 「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究 (2) —音読練習との比較調査からわかること—」『2005 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会, pp.241-242
- 迫田久美子・古本裕美・橋本優香・大西喜世子・坂田光美・松見法男 (2007) 「日本語指導におけるシャドーイングの有効性—学習者のレベルの違いに基づいて—」『日本教育心理学会総会発表論文集』No.49, 日本教育心理学会, pp.477
- 高橋恵利子・松崎寛 (2007) 「プロソディーシャドーイングが日本語学習者の発音に与える影響」『広島大学日本語教育研究』17, pp.73 - 80, 広島大学大学院教育学研究科
- 高山芳樹 (2007) 「シャドーイング・スキルは英語運用能力の指標となりうるか」『英語論考』36, 東京学芸大学英語合同研究室, pp. 11-21
- 玉井健(1992) 「”follow-up”の聴解力向上に及ぼす効果および”follow-up”能力と聴解力の関係」『STEP BULLETIN』Vol.4, 日本英語検定協会, pp.48-62
- _____(1997) 「シャドーイングの効果と聴解プロセスにおける位置づけ」『時事英語学研究』第36号, pp.105-116
- _____(2005) 『リスニング指導法としてのシャドーイングの効果に関する研究』風間書房
- 戸田貴子 (2004) 『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク
- 戸田貴子 (2009) 「日本語教育における学習者音声の研究と音声教育実践」『日本語教育』142, pp.47-57, 日本語教育学会
- 戸田貴子・大久保雅子 (2009) 「シャドーイング実践における学習者の「気づき」—中級・上級との比較から—」早稲田大学日本語教育学会 2009 年秋季大会, pp.16-17
- 望月通子 (2006) 「シャドーイング法の日本語教育への応用を探る—学習者の日本語能力とシャドーイングの効果に対する学習者評価との関連性を中心に」『視聴覚教育』29, pp.37 - 53, 関西大学
- Schmidt, R.W.(1990) The role of consciousness in second language learning. *Applied Linguistics*, 11/2, pp129-158.
- 『日本語でシャドーイング』 <http://www.gsjal.jp/toda/shadowing.html> (2010 年 12 月 17 日)